

2010.12.18

# 10年代の情報術

紙と電子は、共存する

於 谷戸公民館

ひつじ書房代表取締役・編集長

松本 功

<http://www.hituzi.co.jp>



こんにちは！

- 自己紹介

- ひつじ書房は、言語学の学術書を出している出版社です。
- 私が創業しました。
- ことしで20周年を迎えました。
- 1990年創業です。

# 生き延びてるか？出版社

- 生存数

- 『白書 出版産業2010』

- 3979社（29年ぶりで4000社を割る）

- 社員が1000人以上いる会社は？何社？

37社

# 書籍編集者の立場

- 微妙
- セカンドバージン（鈴木京香）
- 失樂園（渡辺淳一）
  
- あまりにもカッコイイ、派手。実際は、たぶん地味だろう。

# 電子書籍ブーム



- 電子書籍というものが、注目される時代の中で、情報というものを考えたい
- kindle
- iPad
- GALAPAGOS

もりあげているのは、

- twitter
  - ITコンサルタント
  - 電子教科書で儲けようと山千海千
  - IT系ライター
- 
- 書籍を作ろうとしている人じゃないのでは？
  - ザルや地図を売る人ではないか？
  - 金塊（コンテンツ）を掘る人じゃない。

# ひつじ書房と電子書籍関連

- 1994年 文学研究書『フィクションの機構』のcommon ground版をニフティサーブに「発行」。(pdfが日本に上陸する以前のこと。)
- 1995年 ホームページ作成。
- 1998年 ネット上の少額決済・カンパを行える仕組みとして投げ銭システムを提唱。
- 1998年 青空文庫にバナー広告を開始。現在まで継続。
- 1998年 ボイジャージャパン社のT-Timeを書店に流通させる。ver2まで。

# 1994年の日経産業新聞



「フィクションの機構」  
山形大学人文学部の中村三春助教授著のメタフィクション論の第1弾。哲学と文学を重ね合わせながら文学を論じている。書籍と同様にフロッピーディスク版も主に書店などで販売する。ひつじ書房では「フィクションの機構」をニフティサーブで販売。したのに続き、インターネットの言語学フォーラムを通じて言語学関連の本の紹介を始めることも検討している。(ひつじ書房、3200円)

## フィクションの機構

「書店では流通しない、ほとんどが注文を受けてから書店に送っているわが社のような専門出版社にとって、少しでも多くの人の目に触れる機会を作ることが大切なのです」。松本社長は三つの形態で発行する理由をこう説明する。ひつじ書房は松本社長が少数のスタッフとともに創業

## 出版界 ニュー入の裏側

「書店では流通しない、ほとんどが注文を受けてから書店に送っているわが社のような専門出版社にとって、少しでも多くの人の目に触れる機会を作ることが大切なのです」。松本社長は三つの形態で発行する理由をこう説明する。ひつじ書房は松本社長が少数のスタッフとともに創業

準備を進めている。「FBO」に関するフォーラム「FBOO K」で、同書を販売する

ことを決めていた。既に発売した書籍版に続き、近々米アップルコンピュータのパソコン「マッキントッシュ」用のフロッピーを発売する。さらにパソコン通信サービス「ニフティサーブ」の本に

「フィクションの機構」の場合には通常の書籍として発行する企画を立てたときから、フロッピーディスク版も出す

## FD、パソコン通信でも 流通経路の確保狙う

「松本社長」ことや、通常の書籍を扱っている取次店との

「フィクションの機構」の関係を流し、フォーラムの参加者に見てもらい、気に入った人には書籍を買ってもらおうか、ダウンロードした段階で、書籍と同額の料金を送ってもらうという仕組み

「フィクションの機構」の関係を流し、フォーラムの参加者に見てもらい、気に入った人には書籍を買ってもらおうか、ダウンロードした段階で、書籍と同額の料金を送ってもらうという仕組み

「松本社長」ことや、通常の書籍を扱っている取次店との

「フィクションの機構」の関係を流し、フォーラムの参加者に見てもらい、気に入った人には書籍を買ってもらおうか、ダウンロードした段階で、書籍と同額の料金を送ってもらうという仕組み

「フィクションの機構」の関係を流し、フォーラムの参加者に見てもらい、気に入った人には書籍を買ってもらおうか、ダウンロードした段階で、書籍と同額の料金を送ってもらうという仕組み



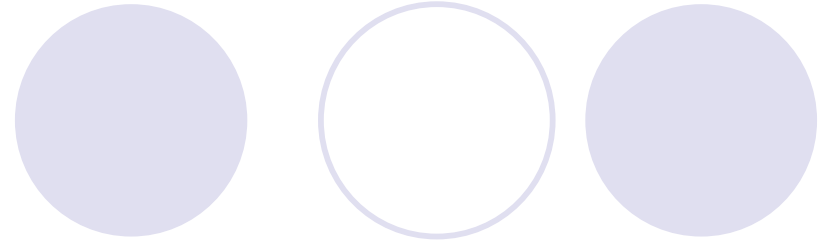
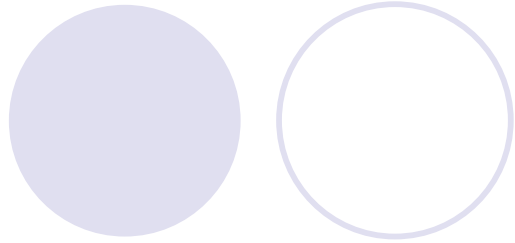
# これからお話しする流れ

- ◆ 書籍出版人のこだわり
- ◆ 今、電子書籍と呼ばれているものの位置
- ◆ ネットのお金の理想像
- ◆ 共棲する紙と電子

# 書籍出版人のこだわり



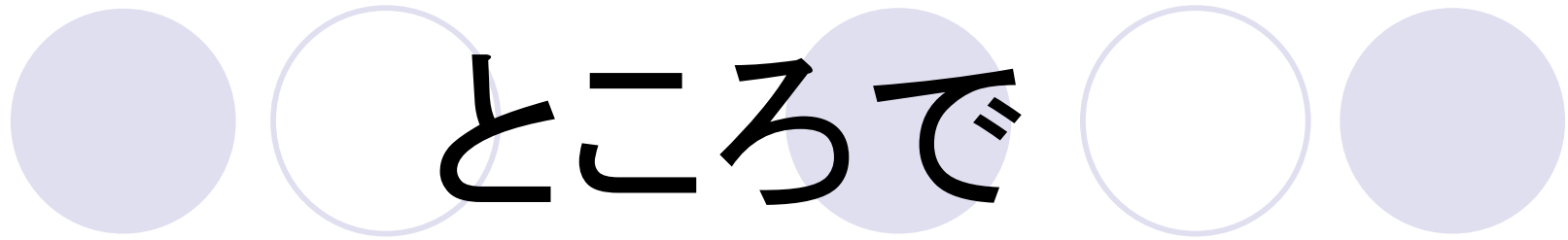
- 流し込めば、できあがり？
- 禁則処理の話し
- 普通の本



- 学術書の場合
- 言語学
- 電子書籍のフォーマットが学術書・専門書に対応するか？
- 紙だって、20年近くかかった。まして...

# 本質的な問い

- 『本は、これから』の中で東大教授の西垣通さんが次のように言っています。
- 仮に紙の本がなくなり、われわれがデジタル信号のみがとびかう情報社会のなかで生きていくとしよう。そのとき、人間精神はいかなる変容をこうむるのか？ こういった問題についてもっと死にもの狂いで想像力をはたらかせる必要はないのだろうか。
- **ビジネスの問題ではなく、人間精神の問題**



- 精神の話ではなく、組版の話をお願いします。お勉強ぽいかも知れませんが、お許し下さい。

# 一般書籍の禁則処理

- 行末 ([ { { < < 「 『 【 【 [ (
- 行頭 。 . , ) ] } 、 } > > 』 』 】 』 』 )
- ー (音引き) 々 ?
- ヰー アイウエオツヤユヨワカケあいうえおつやゆよわ  
かけクシストヌハヒフヘホムラリルレロ々  
々

# 海外の翻訳書の場合

- カタカナの人名
- ピーター、ガーター、デンバー
- ジョン、ダーリン
- マリィ、リリィ

# 組版のナゾ



- 風の歌を聴け、単行本版と文庫版の比較
- 単行本版のこだわりが文庫にはない。
- しかし、誰かが問題にしたか？
  
- 文字主体のテキスト、小説は電子書籍で問題ない？



ひょっとして、禁則処理自体を知らない



**biblio Leaf SP02の  
宣伝**

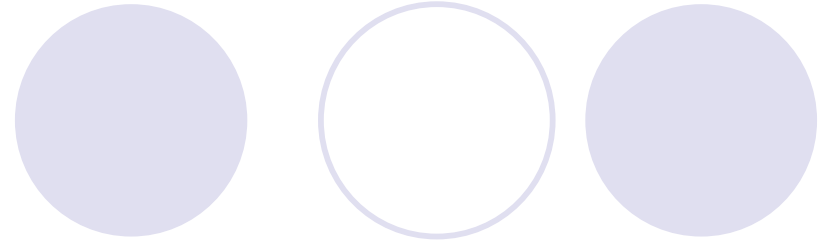
# では、言語学の学術書は？

- デザインという以前に複雑な要素

- 1 日本語に英語が混ざることが多い
- 2 術語の説明のために「」や<>が使われる
- 3 中国語韓国語も使われることがある
- 4 発音記号や異体字など、一般的ではない文字
- 5 単語の位置合わせが重要

- 電子書籍での対応が困難であると予想される

# デバイスごとに



- デバイスごとに〈ページデータ〉を作るのは現実的ではない
- kindle用
- iPad用
- Galapagos用
- Nook用
- エトセトラ

# 媒体の寿命



- ストリーミング型だとそのサービスはいつまで続けられるのか
- 〈ページデータ〉は、いつまで読めるのか
- 紙が200年として10年？
- 短期間しか読めないものを学術書としては販売できない

# 学術書と一般書

- 違う世代も読むかもしれないと夢みる
- VS
- いま読めればいい
- 大きな対立
- 上書き可能性の問題overwritability

# 書籍編集者だけのこだわりか

- そうかもしれない、しかし
- こだわっているのは体裁ではなく
- 積み重ねを無意味とする精神
- 「人間精神はいかなる変容をこうむるのか？」を考える

# 今、電子書籍と呼ばれているものの位置

- 脱パソコン
- パソコンはもともとハッカー文化
- インターネットはもともとUNIX文化

# 電子書籍端末の特徴



- 電子書籍端末は、認証、決裁、非複製
- 中央管理 上書き可能性
- 家電文化？
- Smart Grid?



# スマートグリッド wikipedia

- 新しい機能を持たせた電力網である。[アメリカ合衆国](#)の電力事業者が考案した。「スマート」という語が表すように、通信機能を持った人工知能搭載の電力系や制御機器等をネットワーク化することによって発電設備から末端の電力機器までを通信網で接続し、自動的に需給調整が可能な[電力系統](#)を構築することで電力の需給バランスを最適化しようというものである。巨額の公共投資を必要とするため、計測機器、システム、設備工事といった関連業界が推進し、特にこうした産業を持つ日本や米国などでは官民一体で推進している。消費者利益に結びつくかどうかは未知数であるが、最小の[コスト](#)で送電網を構築することに狙いがあるため構築コストの低減が大きな課題である。事業所や工場など、限られた範囲でエネルギー供給源から末端消費部分を通信網で管理する場合も定義に含まれ、サブカテゴリとしてマイクログリッドと呼称される。

# うつわ性



- くるくる回せる
  - 大きく、小さくできる
  - 反応する（ように見える）
  - 箱に入っている感
- 
- PDFにはならない

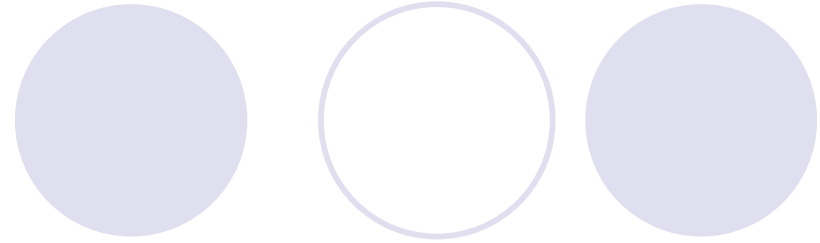
# ネットのお金の理想

- 普通に紙やコインのお金のように受け取ったり、渡したりができるとうい
- 大企業・銀行の支配ではなく、誰でもが普通に使える公的な電子決済を！

# タダというお金

- 「タダというお金」になってしまう
- 究極の再販制（どこでもタダ）
- 棲息しにくくなるような
- タダと非タダの共棲を

# 共棲する紙と電子



- なぜ、電子が紙に置き換わるというのか
- 両方とも併存するというのが自然では？

## 西垣通「電子書籍がやってくる」（『本は、これから』岩波新書）

- 情報は普通、人間社会で通用する「意味」作用をもっている。そこでは、ソーシャル記号学でいう記号表現（シニフィアン）と記号内容（シニフィエ）が一体となっているわけだが、とくに前者のみを分離すれば「機械情報」が出現してくる。コンピュータの処理するデジタル信号はもとより、およそ情報科学であつかう情報はことごとく「意味」から切り離された機械情報なのだ。情報の学問としては通信工学者クロード・シャノンが20世紀半ばに作った情報理論が有名だが、これは送信機から受信機へ効率よく機械情報を伝達するための信号変換理論なのである。
- ところが、困ったことがおきた。シャノンの情報概念が言語学者ローマン・ヤコブソンらによって拡張され、意味を含んだ情報の伝達理論とみなされてしまったのだ。この結果、「傷心機から受信機へ」ではなく、「送信者から受信者へ」情報を伝達する、という通俗的な図式が出現した。

# いまの社会を作る基礎であったとすると

- 上書き可能性
- ネットワーク化
- パーソナライズのメディア
- 検索が主体
- 情報が玉石混淆
- 情報が「無料化」

# メディアを通して人は学ぶ

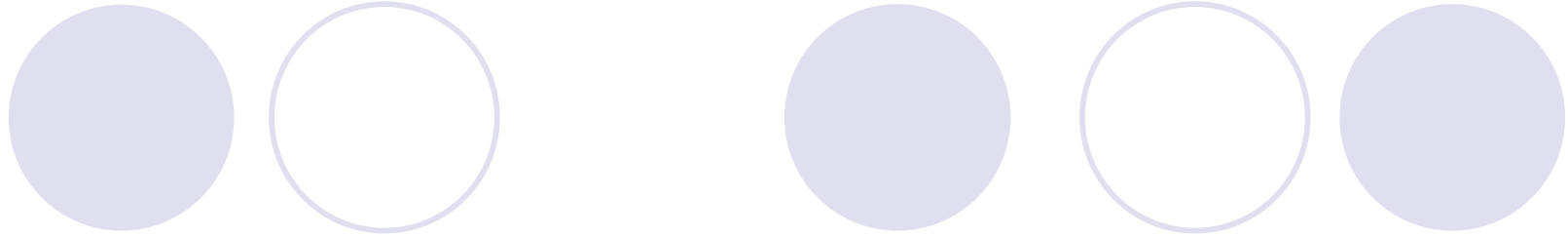
- メディアの力はナゾ
- メディアを通して学ぶこと
- 媒体なしの中身・真実は？



# 新しい可能性

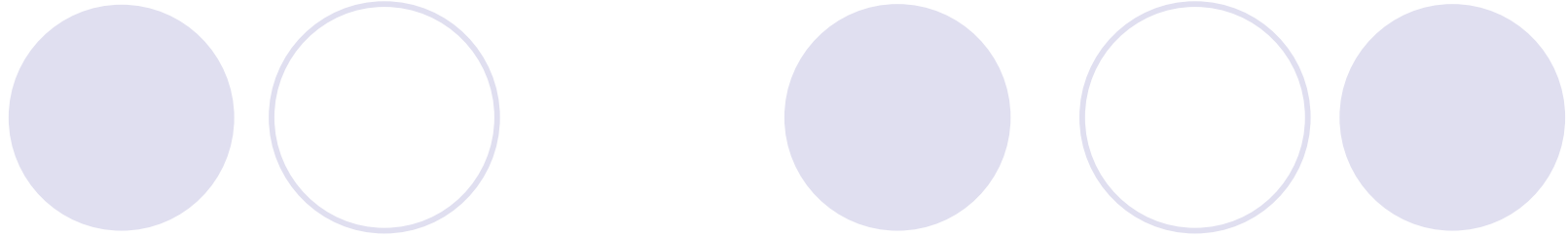


- 動的な研究論文
- 音楽学
- 音声学
- 舞踊学
- 手話学
- 映画学
- ジェスチャー学



- 身体コミュニケーション学
- しかし、細馬宏通先生のコメント
- 書籍は動的である必要はない。動画は付録で付いているのでいい。

- ジェスチャー研究、音楽研究者
  - 細馬先生の研究室のサイト
- <http://www.shc.usp.ac.jp/hosoma/>



- 電子書籍は、厚さがない
- 読み返す、後ろから前に戻って読むのはキツイ
- 資料をブラウズするにはよいが、思索的に読み返すにはかならずしも適切ではないメディアかもしれない

# 最後に、もう一度

- 紙と電子は、共存する
- 個々人がメディア環境をデザインできる時代
- デザインしなければならない時代になっていく。すべてがハッピーと言えるかどうか？

ありがとうございました。

- 21世紀の情報生活をなるべくストレス無く過ごしましょう。
- よい年をお迎え下さい。
- ひつじ書房のサイトへたまにはお越し下さい。

● 注 谷戸公民館でお話した内容です。副題はあとで加えました。